

TASC- GIFU REPORT

TASC GIFU REPORT 2023



岐阜県障がい者芸術文化支援センター
令和5年度事業 報告書

02	TASC ぎふについて
03	相談／オープンアトリエ
04	出張オープンアトリエ+α クリバラボ／いぶき福祉会
04	ワークショップ クラフトマンいっきの虫作りワークショップ
05-06	人材育成・研修 舞台 基礎研修①／表現研修①／鑑賞研修① 権利研修①／基礎研修②／基礎研修③ 舞台手話通訳者育成講座 in ぎふ 舞台鑑賞サポーター講座 県民参加型舞台 森の夏祭り+ワークショップ
07-16	発表の機会 tomoni アートサポータープレゼンツ企画展 vol.4 チャレンジ企画展①② tomoni ワークショップ NEST 想い 響く 書は心なり いろんなみんなの展覧会 虫が、食む。 清流の国ぎふ総文 2024「特別支援学校部門」プレ大会 みんなのもくもく作品展 TASCぎふコラボ展 vol.9 手と精神 私のいってん！+県庁展示等
17-22	アウトリーチ 中濃 美濃加茂市「TASC ぎふプレゼンツ展」 東濃 中津川市「TASC ぎふのオープンアトリエ」 西濃 大垣市「多様な有りよう展 2023」 飛騨 飛騨市・高山市「HIDA まちなかアート、黙々広場」 中濃 郡上市「ある人の世界へ」 中濃 関市「渾沌の中の調和Ⅲ」
23-26	いろんなつながり 可児市文化創造センター ala／ぎふ木遊館／建築関係／ OKB 大垣共立銀行／十六フィナンシャルグループ／ 絵馬・清流ゆめ湊灯台／ tomoni あたらしいものづくり [Make with 2023]／ tomoni カフェ／作品二次利用 こたえのない学校／発表協力 いろんな協力
26	アクセシビリティ調査
26	tomoni アートサポーター
27-28	スタッフのふりかえり
29	関連事業 障がい者実演芸術アウトリーチコンサート いろんなみんなのステージイベント／総文プレ大会 清流ふれ愛コンサート／ぎふ★SHOW★フェスタ
30	協力委員会・アドバイザー

(公財) 岐阜県教育文化財団は、ぎふ清流文化プラザを拠点に、県民文化及び地域文化の振興と発展を図り、人間中心のうらおいと安らぎのある生活の提供などに寄与することを目的として、各種文化振興事業を展開しております。

財団内の岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASC ぎふ]は、特に「障がいのある人もない人も共に活躍し、安心して暮らせる『人にやさしい岐阜県づくり』を進める」というノーマライゼーションの理念の実現を目指し、障がいのある人を支える方々とともに、アートの力を活用して、社会とまじわる場をつくり、育て、障がいのある人の表現活動と社会参加の可能性を広げる事業を推進しています。当センターは令和5年7月には設立6年目を迎え、その文化と福祉の枠組みを越えた活動内容は障がい者に対する理解と認識を深めるうえでも重要な役割を果たしており、地域や社会にとっての意義が年々増えています。こうした期待の高まりを受け、令和5年度はこれまで継続してきた取組みの柱である、相談支援、情報の収集発信、ネットワークづくり、人材育成、発表機会の創出等に加え、『各地域や若者へ、広め、まじわる』『アクセシビリティの向上を図る』を新たなコンセプトに、高校生と障がい者や福祉施設によるアートを通じた交流と体験、「いろんなみんなの展覧会」をはじめとした県内全域での各種展覧会やワークショップの充実、誰もが一緒に舞台を楽しむための舞台鑑賞サポーターや舞台手話通訳者などの養成等、様々な障がい者文化芸術活動支援事業を実施いたしました。加えて、障がい者のアート作品の社会経済分野における二次利用を推進するため、金融機関・企業・福祉施設などと一層の連携協力の強化を図りながら、実践的な取組を進めました。

岐阜県では、令和6年秋に「全国障害者芸術・文化祭」を「国民文化祭」と一体的に『清流の国ぎふ』文化祭2024』が開催されます。来年度は、夏の『清流の国ぎふ総文2024』を加えた“文化イヤー”として、障がいの有無や世代を超えた多様な文化芸術活動の流れを創り、アフター・コロナ時代における『清流文化』の創造・発信が積極的に展開されます。当財団としても、こうした取組の一翼を担うため、岐阜県障がい者芸術文化支援センター[TASC ぎふ]による障がいのある人の芸術文化活動推進に対する支援の取組みを幅広く推進いたしますので、引き続きご協力の程どうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 岐阜県教育文化財団
理事長 高木敏彦

アートで、まじわる。

社会とのまじわる場をつくり、育て、障がいのある人の表現と社会参加の可能性を広げることを目指して活動しています。

障がいのある人が、何らかの役割や一つの特性に限定されるのではなく、“支える”と“支えられる”の立場が自然に入れ替わることができる、ゆらぎのある関係性や開かれた社会について、皆さんと一緒に考えていければ幸いです。



MOVIE
TASCぎふの紹介

2023 年度のテーマ

サポート

各地域や若者等へ、広め、まじわる

またそのサポートを行う事業を実施する

アクセシビリティ

アクセシビリティの視点をもった事業を展開する



障がい者の芸術文化活動に関する相談窓口（直接来所、電話、メール、FAX）を設置し、ご本人やご家族、支援者からの各種相談に対応しています。また、専門アドバイザーとの協力体制を整えるとともに、全国にある支援センターとも連携し、様々な課題の解決に取り組んでいます。（記：平野）

50件

相談件数
2023年度
(3/7 現在)

相談依頼者		相談内容	
福祉関係者	6件	権利保護（二次利用、商品化等）	7件
当事者	19件	発表（発表したい、展覧会の開催等）	14件
教育機関	4件	交流・連携（ネットワークづくり等）	2件
文化団体	8件	情報発信（取材、広報、見学等）	0件
家族	0件	調査研究・保存（作品保護等）	0件
自治体	1件	創作（創作環境、支援方法等）	5件
医療機関	0件	人材育成（研修会、講師について等）	4件
市民団体	2件	その他	18件
その他	10件		



障がいのある人のアート活動や支援したい人など、誰もが自由に創作できる場として開催しています。

コロナ禍が緩和されたこともあり、オンラインで参加されていた方と久しぶりに会場で顔合わせることが出来ました。楽しそうに会話し、各々刺激し合いながら制作に励んでいるのを見て、直接交流できることの大切さに気がきました。今年度も特別企画として、段ボール、はがき・木材、蛍光塗料の画材を準備し開催しました。（記：平野）

2023年5月3日（水・祝）～2024年3月7日（木）13回
会場参加：107名／オンライン 4名
協力：tomoni アートサポーター 6名

オープンアトリエ講師



豊富春菜
美術作家



驚見綱一
画家



南谷富貴
美術作家



桂川成美
版画家

サポート

出張オープンアトリエ + α

県内2か所の福祉施設が、各地域で“場をひらく”取り組みをスタート。その一環としてオープンアトリエを取り入れていただきました。また、オアシスパーク（各務原市）では、ワークショップの講師をクラフトマンいっきさん（ワークサポートみやこ所属）に依頼。参加者のリクエストに応じて、その場で虫の原画を描いたり、色の塗り方を教えたりする姿があり、サポートした施設職員は感慨深く見ていました。（記：二村）



「とりあえず、描いてく？」

生活介護事業所クリパラボ（多治見市）

会 期：2023年7月22日（土）

講 師：鷲見綱一



「にっこりえんがわマルシェ」

いぶき福祉会日光町の家（岐阜市）

会 期：2023年8月25日（金）

講 師：豊富春菜、南谷富貴

サポート

クラフトマンいっきのワークショップ
虫のチャームづくり

オアシスパーク（各務原市）

会 期：2023年10月22日（日）／参加 34 名

講 師：クラフトマンいっき

協 力：ワークサポートみやこ

サポート

アクセシビリティ

人材育成・研修

第2期の tomoni アートサポーターは、約85名登録されており、福祉、アート関係者、あるいは当事者も参加しています。基礎的な内容から、鑑賞など実践を伴うものや重度障がい者に対する生涯学習といった相談から派生した研修も急速設定しました。（記：二村）

5/20
参加 27名

「人間の“しあわせ”を探ろう
～表現し合うことの意味～」

講師：水野友有

（中部学院大学 准教授）

5/20
参加 32名

「オープンアトリエのつくりかた
～誰もが表現を楽しめる場所を
つくるには～」

講師：岡部太郎（たんぼぼの家）

9/18
参加 16名

①「誰もが鑑賞を楽しんで、ということ？」

講師：宮脇朱梨

②映画鑑賞

『目の見えない白鳥さん、アートを見にいく』

（監督：三好大輔、河内有緒）

1/25
参加 27名

「障害のある人たちの表現活動を守る
著作権セミナー in 飛騨市」

講師：TASC ぎふ

2/16
参加 21名

「重症心身障がいの生涯学習に
ついて学ぶ」オンライン研修

講師：竹内麻子（愛媛大学 助教）

基礎研修③ 「アートをメインとした県外施設を見学しよう」

サンフレンド（愛知県小牧市大字大山字岩次 208-3）

さふらん生活園（愛知県名古屋市中区栄 5-21-9）

2/19

参加 15名



サンフレンド



さふらん生活園

共にアートを通して心や生活を豊かにしていきたい

今回の研修で2つの施設を訪れて、楽しそうな顔や真剣な顔で一人一人がそれぞれの道具で、ペースで、作り方で作品を作っている姿がとても印象に残りました。一人一人が自分の作りたいものを作りたいように作り、生み出された自然なありのままの姿のものをアートとして価値づけ、それにより社会と繋がっていったり、その人が他の人から認めってもらったりする経験を通し、さらに

その活動が広がっていくというつながりがとても素敵だと思いました。また、創作活動やアートに親しむ活動を通して、障がいのある人もない人もお互いに生活を豊かにしていけると感じました。私は、現在大学で特別支援教育について学んでいます。私自身も小さい時から絵を描いたりすることが好きで、障がいのある方の創作活動やそれを共にに行なっていく取組みにとても

興味を持ちアートサポーターに登録させていただきました。これからも、アートサポーターの活動を通して、大学での学びと結びつけ深めていき、私も1人のアートを親しむ人として、共にアートを通して心や生活を豊かにしていきたいと思います。



tomoni アートサポーター
高橋愛果



5/13～6/4
参加 6 名

舞台手話通訳者養成講座 in ぎふ

会 場：ぎふ清流文化プラザ 他

講 師：河合依子（岐阜ろう劇団いぶき主宰）



6/4・8/13
参加 18 名

舞台鑑賞サポーター講座

会 場：ぎふ清流文化プラザ 他

講 師：山上庄子（Palabra 株式会社）

廣川麻子（特定非営利活動法人 TA-net）

舞台手話通訳はセリフ、効果音、音楽等、舞台上のあらゆる音情報を手話にしてお客様に伝える、舞台上の情報保障のひとつ。その担い手である舞台手話通訳者の養成講座を実施しました。講座最終日は、戯曲「あゆみ（短編）」を、長良高等学校演劇部の演者と受講生が演じ、聴覚障がいがあってもなくても一緒に鑑賞できる舞台が出来上がりました。また、お客様や共演者にとって、舞台手話通訳がひとつの情報保障には留まらず、舞台をより面白いものにできる演出のひとつとしても観ていただき、バリアフリー演劇の興味・関心を広めることができました。

（記：山田）

誰もが舞台鑑賞を楽しむためのサポート方法を学ぶ講座を2日間に分けて実施しました。1日目は座学を中心とした基礎研修に加え、戯曲「あゆみ（短編）」を観劇し、バリアフリー演劇の実際を学びました。2日目は実践研修として、「森の夏祭り」コンサートの運営スタッフとして来場者のサポートに当たりました。講座の一部受講生にはその後、長良川ホールでの催しに運営スタッフとして参加していただくなど、講座での学びを繋ぎ、広げることができました。（記：山田）



サポート

アクセシビリティ

県民参加型舞台



森の夏祭り

会 期：2023年8月13日(日)

会 場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール

参 加：124 名

出 演：さ・ま〜kajii

歌のギリギリおにいさん

ジャイコナイトナゴヤ

ぶめぶめ村

協 力：舞台鑑賞サポーター



1部は素敵な音楽、面白い楽器等を観て聴いて楽しみ、2部は会場に敷かれたマットに座って音楽を聴いたり、体を揺らしたり、立って踊ったり、寝転んだり…、自由に楽しむコンサート。途中出入り可、明るい会場等、安心して鑑賞できる環境を整えるとともに、舞台手話通訳、字幕表示等の情報保障を行うことで、誰もがその人らしく楽しむことができ、コンサートは大いに盛り上がりました。(記：山田)



ワークショップ

「ゲコリーナを作ろう！」

会 期：2023年8月3日(木)

会 場：ぎふ清流文化プラザ セミナー室

参 加：21 名

講 師：クマーマ (kajii)

「森の夏祭り」で使う楽器をワークショップ形式で作りました。



tomoni アートサポータープレゼンツ企画展 vol.4

わたしのファッションショー

会 期：公募展：2023年9月9日(土)～9月30日(土)

ピックアップ展：2023年10月22日(日)～11月7日(火)

会 場：ぎふ清流文化プラザ

文化芸術県民ギャラリー・エントランス

出展数：233 点

参加サポーター：21 名

ピックアップ展 選者：11 名

安藤真衣、臼井かつら、白木敏雄

園部洋美、段香菜子、寺島真希

土井さおり、松原一博、安田香実

柳原史佳、脇谷真理子

オンライン鑑賞

開 催：2023年9月13日(木)・14日(木)・20日(水)

参加者：3 組

ナビゲーター：柳原史佳 (tomoni アートサポーター)

園部洋美 (tomoni アートサポーター)



サポーターミーティングを数回重ね、内容やテーマの検討、出展方法などを話し合いながら決めていきました。また、今年は、テーマがファッションということもあり、ファッションショーを開催するという新しい取り組みをしました。ファッションショーに関わり、多くの方の協力が必要でしたが、サポーターをはじめ、どの方々もその場を楽しみ、満足しておられる様子は、とても嬉しいことでした。(記：二村)



MOVIE
展覧会



MOVIE
ファッションショー

MOVIE
展覧会

チャレンジ企画展①

ごちゃまぜアートの会 presents 3人のいろ・いろ・いろ展

会 期：2023年4月29日(土・祝)～5月28日(日)

主 催：ごちゃまぜアートの会、TASCぎふ

年齢、性別、国籍、障がいがあるなし関係なく、どんな人でも参加可能なアートを楽しむ会。そんな『ごちゃまぜアートの会』で出会った3人のアーティストの作品を展示しました。三者三様のカラフルな表現は、作品の奥にあるそれぞれの生活や好きなもの、大切にしている何かを感じさせます。オープニングイベントでは、ミュージックライブやアートパフォーマンスも行われました。(記：丹羽)



サポート

ぎふ清流文化プラザ 文化芸術県民ギャラリーを使って、発表したい企画を募集し、2組の企画が実現しました。

MOVIE
展覧会

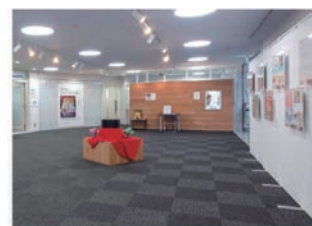
チャレンジ企画展②

Kiyora のうさぎがいっぱい

会 期：2023年6月10日(土)～7月17日(月・祝)

主 催：さとみ絵画造形教室、TASCぎふ

絵を描くときは、自分が納得いくまで時間をかけて、じっくりコツコツ取り組む頑張り屋さんの Kiyora さん。そんな彼女が大好きなうさぎをとことん描いた、うさぎ愛のあふれる展覧会。通りがかったひと、個性あふれる色とりどりのうさぎたちに足をとめて見入ったり、絵の前で写真をとったり、Kiyora さんのつくる素敵な世界に心を惹かれていました。(記：丹羽)



岐阜県障がい者芸術教室 × tomoni ワークショップ NEST

想い響る書は心なり

ワークショップ

会 期：2023年7月29日(土)

会 場：ぎふ清流文化プラザ セミナー室等

主 催：(一財)岐阜県身体障害者福祉協会

講 師：詠鼓、杉山観海

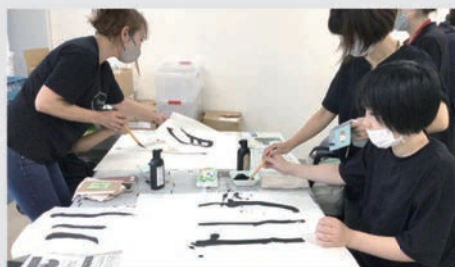
雅印作成：小堀慶大

協 力：ゆめぼっけ

ワークショップの講師を詠鼓さんに依頼し、当日のパフォーマンスもしていただきました。これまで感じたことのない緊張感だったそうですが、大きな作品が



出来上がりました。また消しゴム版画で作品制作している小堀慶大さんに、各参加者の雅印作成を依頼。きれいに彫られた参加者自身の印を押して作品が完成しました。(記：二村)

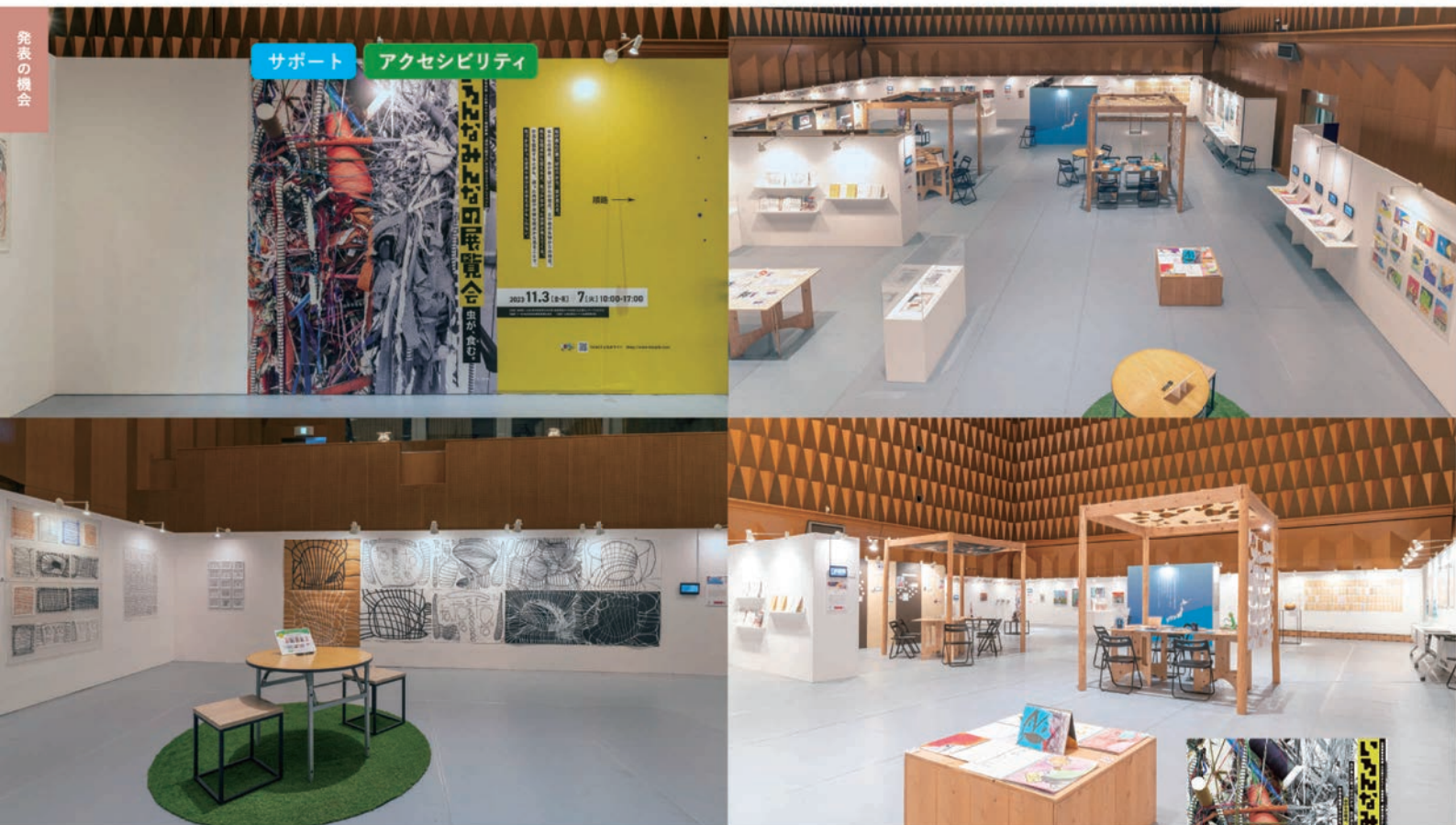


作品展

会 期：2023年8月5日(土)～8月27日(日)

会 場：ぎふ清流文化プラザ 文化芸術県民ギャラリー





第23回全国障害者芸術・文化祭サテライト開催事業

「清流の国ぎふ」文化祭2024プレイベント

いろいろなみんなの展覧会 虫が、食む。^は

会 期：2023年11月3日(金・祝)～7日(火)

会 場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホールなど

主 催：岐阜県、TASC ぎふ

助 成：(公財)十六地域振興財団



「虫が、食む。」と題した今回の展覧会では、以下のような目標を立て、様々な企画を行いました。

(A) 障がい者やその周辺の人にとって、自分の可能性や将来の希望を見出すきっかけとする。

(B) 来場者が見方を変えたり、自分事としたり、様々な価値観を発見し、よりよい社会について考える機会とする。

(C) 情報保障(アクセシビリティ)に配慮した鑑賞会などを企画し、多様な方の参加を促す。





MOVIE
いろんなみんなの展覧会
虫が、食む。

文化絢爛 ふんかけんらん
いしかわ百万石文化祭2023
第38回国民文化祭 第23回全国障害者芸術・文化展
令和5年10月14日(土)～11月26日(日)



はじめて出展された MAKOTO さんは、
展覧会場で自身の作品に対するコメント
をいただいた高橋純子さん (flamant 店
主) に直接会い、満面の笑顔での対面。
施設職員の見方や今後のアート活動に
も変化がありそうです。(記：二村)



まじわるラジオ
謎ときゲーム
対話型鑑賞会
黙々鑑賞会

アートマルシェ
ストリートピアノ
15 時からの TASC-1 ステージ
クモの巣をつくろう!

石川県の展示
わたしのファッションショー
出展者とコメント提供者

サポート

アクセシビリティ

清流の国ぎふ総文2024「特別支援学校部門」プレ大会



令和6年度開催の『第48回全国高等学校総合文化祭 清流の国ぎふ総文2024「特別支援学校部門」』のプレ大会として、特別支援学校の幼児・児童・生徒の日頃の学習や文化系部活動の成果を発表する、美術作品展と音楽発表会を開催。

作品の展示やステージパフォーマンスの他に、作業製品の販売会も実施し、特別支援学校の取組みを発信しました。（記：山田）

第29回 美術作品展

会 期：2023年11月14日(火)～26日(日)

会 場：ぎふ清流文化プラザ

文化芸術県民ギャラリー・エントランス

出展校：県内特別支援学校 23校



MOVIE
美術作品展

第28回 音楽発表会

会 期：2023年11月22日(水)

会 場：ぎふ清流文化プラザ

長良川ホール

出演校：下呂特別支援学校

岐阜本巣特別支援学校

岐阜希望が丘特別支援学校

飛騨古城特別支援学校

揖斐特別支援学校

恵那特別支援学校

岐阜盲学校



MOVIE
音楽発表会

同時開催

みんなのもくもく作品展

会 場：ぎふ木遊館ギャラリー（岐阜市）

ぎふ木遊館と連携し、岐阜県内の特別支援学校の児童・生徒による木を主材料にした製品や作品を展示。



TASC ぎふコラボ展 vol.9

「手と精神」

会期：2024年1月13日(土)～2月25日(日)

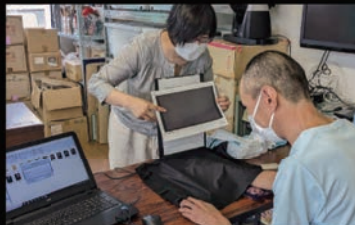
会場：ぎふ清流文化プラザ 文化芸術県民ギャラリー

監修(プロジェクト/作品)：湯澤大樹 記録映像：TERAMAKI

参加者：あしたの会・自然の家(山県市)、いぶき福祉会(岐阜市)、はばたき(海津市)

大久野保育園(東京)、東京多摩学園(東京)、奥多摩町立奥多摩中学校(東京) 他

TASC ぎふコラボ展は9回目を迎えました。東京藝術大学で教鞭をとる湯澤大樹さんに協力を求め、複数の施設でのワークショップにて、寝たきりの人、手が動かない人なども、型取りなどのアナログ方法や、3Dスキャンなどのデジタル技法を用いて参加。展示されている全ての「手」は、現存する誰かしらの「手」であり、多くの方の参加による約半年間のプロジェクトを経て、作品が出来上がりました。(記：二村)



表現活動や発表の場に、これまで参加する機会を得られていない方々が主役となり、「全員が参加できること」として企画をした。

個人を象徴する「手」を題材に、障がいの有無に限らず、大人から子どもまで年齢・性別・国籍など関係なく、1000人以上の方に参加して頂き、感謝の極みである。

複数のスキャニング手法を用いることで、気軽に参加可能な内容にすることを心掛けた。

自らの体験やその場での会話を通じて、障がい者文化活動への参加経験がない方でも関心を持つきっかけとなることを期待した。

作品は、当事者そのものとの結びつきを損なわないことに注力し、「手」のイコノロジーと「ART」「仏教タントリズム」の思想をもとに文脈を作りあげた。

物量や色彩で勝る視覚優位なコンテンツが増加する昨今、当事者と社会との繋がりを深め、個の特性や「生」そのものを思考する作品・活動となることを意識した。

湯澤大樹 (東京藝術大学美術学部デザイン科講師)



岐阜県にゆかりのある多彩な表現者たちの作品を、ぎふ清流文化プラザ 1 階の木製壁面に展示。今年も、あらたに 10 名の方を紹介しました。1 階の tomoni カフェのほか、2 階の運転免許講習センターでの展示もはじめ、多くの方に作品を観ていただくことができました。



「輝く世界」

No.79

Luna

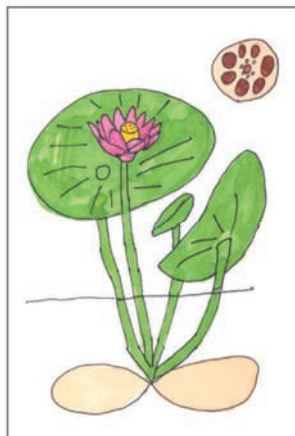
るな

ビーサークル 所属

平日は 1 日 2 時間程度、休日は食事の時間以外は、ほとんど描いているというほど、絵を描くことが大好きな Luna さん。

作品を見る人たちが、癒されたりきれいだと思ってくれるようなものを作ることも大事だが、自分自身が納得のいく作品を作ることが課題だそうで、見る人の感情を揺さぶることに面白さを感じながら、ひとつひとつ仕上げていきます。

また、作品の利用につなげる目的で来館者が自由に持ち帰ることができる作家カードを作成。実際に二次利用におつなぎすることができました。(担当者：中尾)



「はす」

No.080



前川 梨沙子

まえかわ りさこ

明るく優しい性格の梨沙子さん。手芸も得意で、人形やアクセサリーを作ることも好きです。

小学校低学年のころ、ディズニーのプリンセスが好きになったことをきっかけに絵本を見ながら、絵を描くようになりました。

図鑑で見たり興味を持ったりしたものを、はがきサイズの手紙にサインペンで輪郭を描き、色鉛筆で色を塗り仕上げしており、自分の目に映ったままに描くことを楽しんでいます。



「のはらのかめダヨ〜」

No.081



中島 誠

なかしま まこと

益田山ゆり園 所属

いつも、はにかんだような笑顔でピースをする中島さんは、視覚に障がいがありますが、入所している部屋で、テレビを観ながら制作をします。国会中継の時は人物も描きます。

時期によって、夢中になるものが違い、画材もそのひとつで水彩絵の具だけでなく、色鉛筆やクレヨンなども使います。プラモデルの制作に夢中になっていることもあります。



「いつもいるからね」

No.082



月音

るね

アートフィールド 所属

島根大学、伊藤史人教授が開発した視線入力アプリ EyeMot を活用して制作します。パソコンモニターの下部に取り付ける、Tobii アイトラッカーというバーが月音さんの瞳の動きを感知します。

毎日の暮らしの中で見た空や木々や花の色だけでなく、印象に残った人の会話や仲間の大きな声や足音、雷や稲妻の光や音、珈琲のにおい花の香りなど、からだで感じたすべてのことを線や色に乗せていきます。



No.083



松本 宗一郎

まつもと そういちろう

自閉症特有のこだわりや不安感、落ち着きのなさなどがありますが、落ち着いている時は、音楽を聴いて一緒に歌ったり、楽しそうにしています。絵は遊びの延長で描いたことがきっかけで、自宅で思いつくままに描いています。描いた絵を切り刻み、大きなゴミ箱に入れるまでが創作活動の流れで、作品はほとんどありません。体力には自信があり、走るが好きです。マラソン中継を見ることが趣味です。



「化面(ばけめん)」

No.084



そらまめ

夢工房 JIN 所属

「つくる」ことが好きで、以前は折り紙やレシートなどで、想像した人型ロボットを作っていました。制作をすると安らぎを得られるのでそれが楽しみでもあります。

事業所に通い始めてからは、畑仕事の合間に、段ボールを素材とした作品も制作するようになりました。接着剤を使わず、はめ込みで完成させることにもこだわりがあり、集中すると時間を忘れて夢中になります。



「マンドリル」 No.085

良太
りょうた

Wakucow Art 所属

絵を描き始めたのは、中学生のころに通った、放課後等デイサービスでのアート教室がきっかけの良太さん。
絵を描くことがとても大好きになり、今も月に2、3回、アート教室に通い描いています。



「おかしな富士山」 No.086

林 寿一
はやし としかず

幼少期から絵を描くことが大好きで、広告などの紙なら何にでも、毎日何枚も描いていた寿一さん。
清流特別支援高等学校に進学し、美術部へ入部。たくさんの先生方の出会いと指導により、色々な描き方を学び、部活の時間は、部屋が静まり返るほど集中して描いていたそうです。



「デッドリームアニメ」 No.087

碧
あお

慎重で真面目な碧さんは、人は大好きだけど、自分から話しかけることが少し苦手です。ブラックユーモアが大好きで、共感してもらえると話がとまりません。
学校生活の忙しさ、ゲームや動画の刺激などで頭の中の情報がいっぱいになると、気持ちを切り替えて楽しむために、しばらくの間、絵を描いてリラックスします。
集中すると一日中描くこともあります。



No.088

杉原 悠介
すぎはら ゆうすけ

歳くらいで車種をたくさん覚え、小学生で線描、中学生で色付けするようになり、バス・トラック・電車へと興味が広がっていきました。
自宅や制作会に参加して描くこともあり、どの作品も、迷いがなく下書きなしで数分で仕上げます。
特に車の後ろ姿が好きな悠介さん。休日には、愛読書の「バスマガジン（情報誌）」や「フルロード（トラック情報誌）」をながめています。



作家カードを作っています

作品の利用などにつなげることを目的に、来館者が持ち帰ったり、作家自身の宣伝に利用していただくための作家カード（はがきサイズ）を作成し、設置しています。



ここでも展示しています

ぎふ清流文化プラザの tomoni カフェや、岐阜運転者講習センター、岐阜県教育文化財団 理事長室でも作品を展示しています。



「つなぎ ふくらむ作品展」岐阜県庁

出展：前田清之（福祉の里あすなろ 所属）
県障害福祉課と連携し県内福祉施設等のマルシェ開催日に、作品を展示しています。（約3ヶ月）

中濃エリア／美濃加茂市



第35回美濃加茂市美術連盟展

特別展 TASC ぎふプレゼンツ展 みんなカモン！

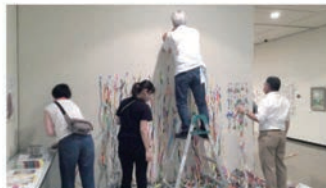
サポート

会 期：2023年6月11日（日）～6月18日（日）
会 場：みのかも文化の森（美濃加茂市蜂屋町上蜂屋3299-1）
出 展：安藤優花、カッチン、Kiyora、後藤秀徳、Jo、鈴木和貴、田口翔大
西田優、西脇秀威、ひしだみわ、矢部宗太郎、Luna
協 力：美濃加茂市美術連盟、寺島真希（tomoni アートサポーター）
共 催：岐阜県



トークイベント「みわちゃんカモン！ みんなカモン！」

会 期：2023年6月18日（日）
会 場：みのかも文化の森 緑のホール
ゲスト：ひしだみわ 他



美濃加茂市美術連盟が毎年開催している展覧会の特別展として、OKB 大垣共立銀行の「トモニアートプロジェクト」に参加している作家10名と美濃加茂市にゆかりのある田口翔大さんとひしだみわさんの作品を展示し、地元の方々に興味深く見ていただく機会を設けることができました。また、ひしだみわさんのトークイベントでは、生まれてから現在の創作活動について紹介し、ひしださんの作品の魅力や家族や関係者の支えについて、多くの方から感銘を受けたとの声をいただきました。（記：井川）

東濃エリア／中津川市



(一社) 中津川青年会議所主催「ごちゃまぜフェスタ」

TASC ぎふのオープンアトリエ

サポート

会 期：2023 年 7 月 30 日 (日)

会 場：ふるさとにぎわい広場 (中津川市えびす町1707-2)

協 力：岡田恵美 (tomoni アートサポーター)

津崎康一 (tomoni アートサポーター)

西尾桃子

共 催：岐阜県



中津川青年会議所の主催する「ごちゃまぜフェスタ」に出店し、オープンアトリエを開催。「いろんなみんなの展覧会 虫が、食む。」に関連して、一枚の紙から作る「虫のお面」作りやアルミホイルを利用して水の上に絵(インク)を浮かばせる「浮かぶ虫の絵」など、普段やらない手法も取り入れました。参加者はそれぞれの創意工夫で虫作りを体験していました。(記：武藤)



西濃エリア／大垣市

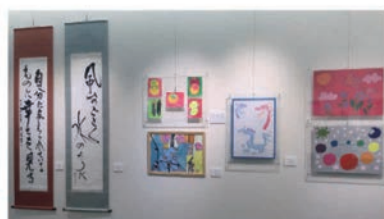


多ような有りよう展 2023

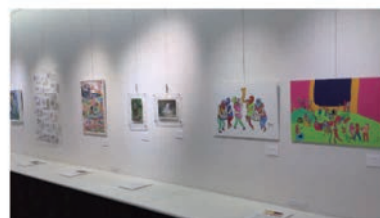
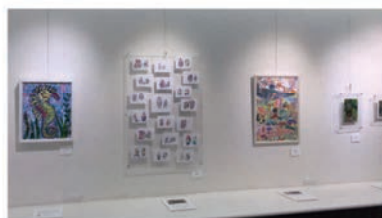
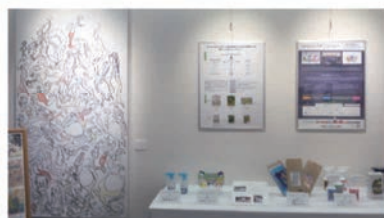
サポート



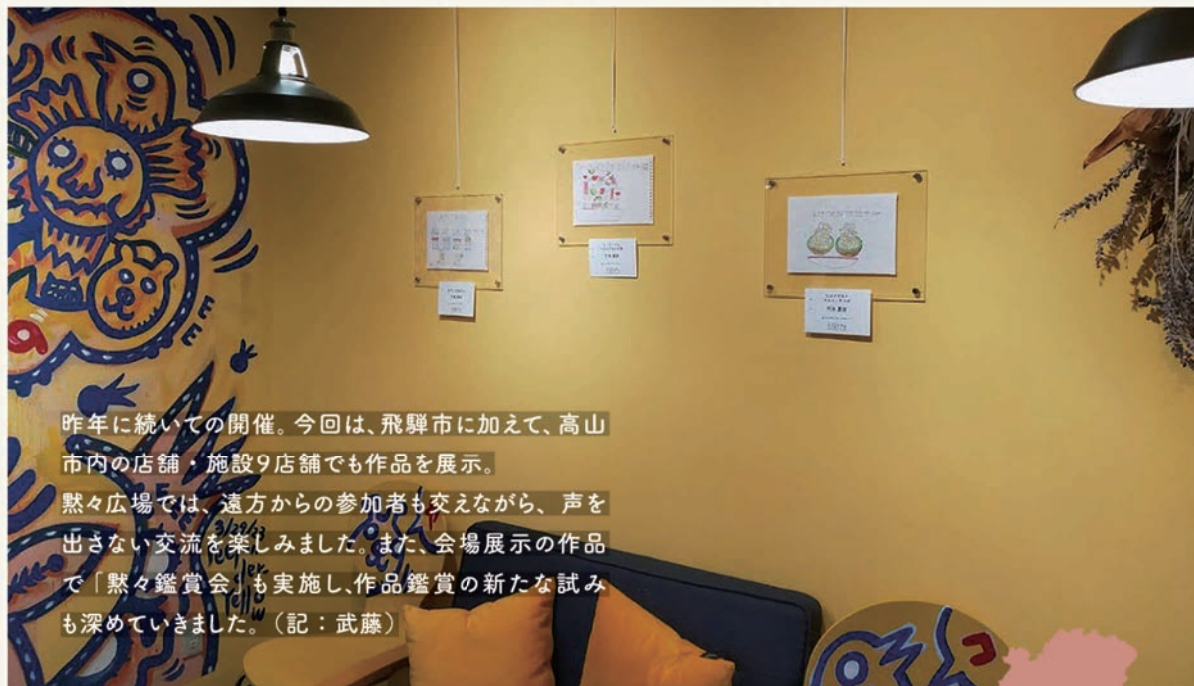
会 期：2023年6月30日（金）～8月6日（日）
 会 場：OKB ギャラリーおおがき（大垣市高屋町1丁目59番地）
 出 展：安藤優花、カッチン、Kiyora、後藤秀徳、Jo、鈴木和貴、
 難波岳雄、西田優、西脇秀威、矢部宗太郎、Luna
 主 催：OKB 大垣共立銀行、TASC ぎふ



大垣共立銀行が主導する「トモニアートプロジェクト」の内、現金封筒への掲載候補となった作家の作品や地元の特別支援学校生徒らの作品を展示しました。本格的な展示空間に、出展作家も大変喜び、遠くの方も見に出掛けるきっかけとなりました。（記：井川）



飛驒エリア／飛驒市・高山市



昨年に続いての開催。今回は、飛驒市に加えて、高山市内の店舗・施設9店舗でも作品を展示。
黙々広場では、遠方からの参加者も交えながら、声を出さない交流を楽しみました。また、会場展示の作品で「黙々鑑賞会」も実施し、作品鑑賞の新たな試みも深めていきました。（記：武藤）

HIDA まちなかアート・黙々広場

サポート アクセシビリティ

HIDA まちなかアート

会 期：2023年9月10日（日）～12月7日（木）

会 場：飛驒市内：喫茶あん、飛驒市まちづくり拠点 node、カノコヤ
高山市内：村半、ピースランド、ゲストハウスとまる、住職書房、
ピッキン、ケータイ屋カマック、くりの木

出 展：熊崎元啓、小林育夫、MAKOTO、竹本夏彦、タクミ、Tomohiro

主 催：HIDA とともにフェス × 実行委員会、TASC ぎふ



黙々広場

会 期：2023年9月23日（土・祝）

会 場：喫茶あん（飛驒市古川町下気多68-7）

主 催：HIDA とともにフェス × 実行委員会

共 催：高山聴覚障害者協会、TASC ぎふ



中濃エリア／郡上市



ある人の世界へ

サポート



会 期：2023年12月22日（金）～12月24日（日）

会 場：古今伝授の里フィールドミュージアム 篠脇山荘（郡上市大和町牧912-1）

出 展：青木仁美、折戸久子、狩野康子、後藤俊貴、森康仁

主 催：チーム宝箱

共 催：TASC ぎふ



写真やフェルト細工などの創作活動をしている5名の作品を集め、出展者自身も展示作業に加わり、どのように見せたいかを考える場となりました。積雪があったにもかかわらず多くの方に来場いただきました。（記：武藤）



中濃エリア／関市



渾沌の中の調和Ⅲ

まちに文字や文字らしきものがあふれる展覧会

サポート

会 期：2024年2月10日(土)～2月23日(金・祝)

会 場：カフェ茶房 宗休、cafe 初雪草、cafe mabiche、SHINE BAGLE、
たこ焼き屋 えでん、高橋商店、HAYASHI、文房具 平賀屋、

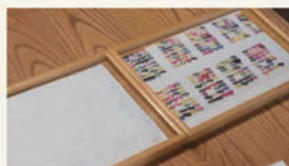
出 展：和泉絢子、江口竜生、大野慧正、大橋学、K→UNI、げんきあっぶ、
佐曾利博、藤岡光、松本宗一郎、渡辺怜真

主 催：NuNo-SEKI、TASC ぎふ

協 力：ウイングハウス、Atelier Edokoro、クリパラゴ、
放課後等デイサービスげんきあっぶ、社会福祉法人陶技学園



関市本町周辺の8店舗で開催。作品展示の他にも、文字や文字らしきものというテーマで店舗のメニューや看板、ランチョンマットに箸袋など店舗に合わせたかたちで展示する試みを行いました。皆さん、各店舗を巡りながら、作品鑑賞をしながら、各店舗での飲食なども楽しんでいただくなど、広がりのある展覧会となりました。(記：武藤)



今年度も、新たないろんなつながりが生まれました。

TASC ぎふは、そのつなぎ手として、障がいのある人もない人もともにまじわれる社会をつくるために、作家や施設、企業、地域の方々との関りが継続していくものになる様、ひとつひとつ大切にしていきます。(記：中尾)



① 可児市文化創造センター ala



いろんなみんなのアート展

(公財) 可児市文化芸術振興財団との連携として、中濃・東濃圏域にゆかりのある方の作品を展示。

会期：① 前川梨沙子 作品展示

2023年4月27日(木)～10月5日(木)

② 杉原悠介 作品展示

2023年10月7日(土)～3月14日(木)

エイブル・アート展 みんなのオープンアトリエ

会期：2023年7月17日(月・祝)

講師：ごちゃまぜアートの会



② ぎふ木遊館



清流ゆめ湊灯台に飾る絵馬づくり

2023年11月23日(木・祝)

ぎふ木遊館が開催する木育メニューで、清流ゆめ湊灯台に飾る絵馬を制作していただきました。完成した絵馬は小学6年生が制作した絵馬とともに掲出しました。



③ 建築関係



このまちの展覧会

写真提供：株式会社栗山組

TASC ぎふから作家情報を提供し、各企業が建築現場に大きくプリントした作品を展示。作品の使用料は各作家に還元。県内作家3名の3作品を紹介。



④ OKB 大垣共立銀行



トモニアートプロジェクト

地域企業と協力して、障がいのある作家の作品を活用した製品を商品化して販売するプロジェクト。TASC ぎふでは、作家紹介や作品の適正利用のアドバイスなどをしています。



⑤ 株式会社十六フィナンシャルグループ



つなぐアート展

県内の十六銀行各支店を一年間巡回する展覧会。鑑賞者からの感想が作者に届く仕組みにより、互いにつながる新たな取り組みです。



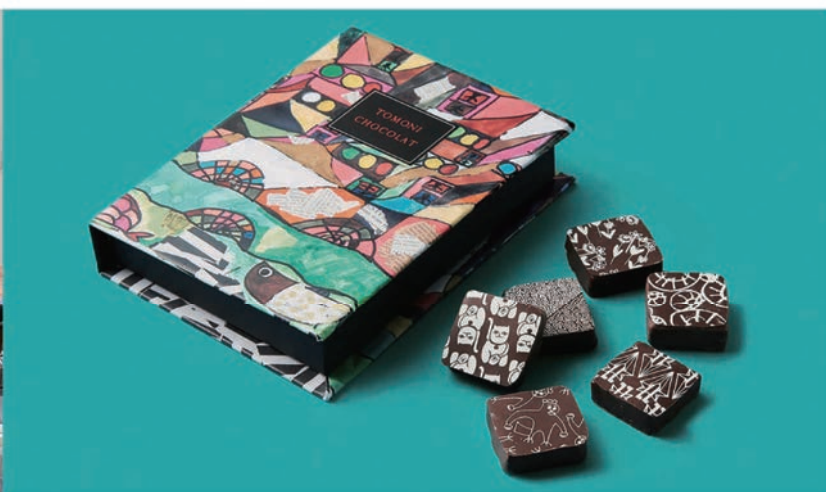
⑥ 絵馬・清流ゆめ湊灯台



県内の特別支援学校の小学部6年生と、ぎふ清流文化プラザ近隣地区(早田・鷺山・長良西)の小学校6年生が思い思いの「ゆめ」を描いた灯台絵馬が、ぎふ清流文化プラザの庭園の清流ゆめ湊灯台に掛けられ、左義長の際にお焚き上げをしています。

7

tomoni あたらしいものづくり [Make with 2023]



県内企業と福祉施設(作家)をアートでつなぎ、
持続可能な新たなものづくりと経済循環を目指します。

さまざまな障がいのある方のアート作品を通じて、障がいのあるなしに関わらず、多様な人々がともに生き生きと暮らせる Well-being の実現を目指し、彼らのアート作品を活用した各種ものづくりに取り組んでいます。
今回、その活動の一環として、岐阜県在住で、国内外で活躍するパティシエ・

ショコラティエである TAKIMOTO の滝本氏とタッグを組み、より広く多くの人々に、彼らの生み出すアートの力を「知って」「ファンになり」「可能性を感じて」いただけるよう、新たなものづくりへのコラボレーションをはじめました。
まず、そのエンジンをつくり、動かすことからはじめ、さらに社会貢献型の経

済循環につながる「ものづくり」から「ブランディングプロモーション」、そして「流通」「販売」へと企画の趣旨をご理解いただける多様な方々とのコラボレーション・コミットメントを促す取り組みを行なっていきます。(記：古田)

8

tomoni カフェ

tomoni つなげる market と作品利活用

ぎふ清流文化プラザ1Fにある「tomoni カフェ」(社会福祉法人舟伏)と連携し、毎月第3水曜日と木曜日にマーケットを開催。県内福祉事業所で作られた製品やアートを活用した商品をPR・販売。



9

作品二次利用

TASC ぎふ スタッフ名刺



TASC ぎふ 養生シート



10

こたえのない学校



「アートで、まじわる」。好きなものや好きなことを通して、まじわることで生まれる気づきがある。

2024年、岐阜県では国民文化祭と全国高等学校総合文化祭が同年開催します。その年に向けて、高校生が、自分の好きなものや好きなことを通して、普段交流機会の少ない、障がいのある方との交流をする企画を立ち上げました。学校では答えを導き出します。テストでも答えを書き

ます。しかし、日常の中では、答えが出せないことや、すぐには導き出せないもので溢れています。TASCぎふは「アートで、まじわる。」と掲げていますが、その『まじわる』ことに明確なカタチがあるわけではありません。その「こたえがない」ことを堂々と掲げて始めた交流事業が「こたえ

のない学校」です。県内8つの高校と、「アート（表現）」を通した様々な交流が行われました。戸惑いと、葛藤が入り混じりながら、それぞれ一つとして同じかたちのない、まじわりが生まれました。そこに、「こたえ」があったかは分かりません。（記：武藤）

このドキュメントは「清流の国ぎふ」文化祭2024にて新聞、ラジオで発信します。

「まじわる新聞・まじわるラジオ」

11

発表協力



三重県

LoVE Gifted

～三重県アールブリュット&ミュージックブリュット 2023～

会期：2023年9月1日（金）～9月10日（日）

会場：三重県総合文化センター（津市）

出展：井上千里、かていよしお、信祥、西田優、月音



石川県

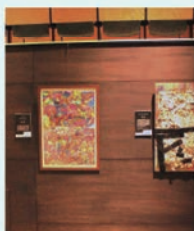
てまえみそ展

会期：2023年12月23日（土）～12月25日（月）

会場：学びの杜のいちカレード

オープンギャラリー（野々市市）

出展：K→UNI、佐藤守道、MAKOTO



富山県

NOMAMA to GAMAMA

氷見のアール・ブリュット展

会期：2023年9月3日（日）～9月24日（日）

会場：氷見市芸術文化館（氷見市）

出展：水上真歩



岐阜県各務原市

障がい者アート展示会 ありのまま展

会期：2024年2月2日（金）～2月9日（金）

会場：各務原市役所

12

いろんな協力



就労移行支援作業所ワンステップ
ちらし発送作業、展示作業

社会福祉法人舟伏
ちらしポスティング

関就労支援オフィス
アンケート集計

TASC ぎふの事業において、福祉施設等に受注作業や就労体験として作業をお願いしています。

表には見えないところでも、いろんな方々に協力していただき、とても助かっています。
(記：平野)

アクセシビリティ

アクセシビリティ調査

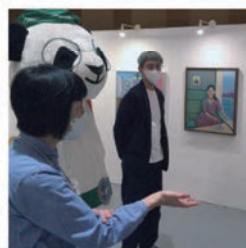
協力：株式会社 SMC-POWER

JR 岐阜駅、名鉄岐阜駅から、ぎふ清流文化プラザで行われるイベント等に、安心・安全なルートで来場していただくため、まずは車いすユーザーを対象にした、アクセシビリティ調査を実施。車いすユーザーの目線から、ぎふ清流文化プラザ館内において、現時点で改善できることの提案を受け、施設管理担当と共有しました。(記：二村)



tomoni アートサポーター

今年度で第2期 tomoni アートサポーターの任期が終了致しました。2021年～3年間で85名の方の登録がありました。「アートの力を活用して、社会と交わる場をつくり、障がいのある方の表現と社会参加の可能性を広げる」ことをともに目指しています。(記：平野)



スタッフのふりかえり

TASC ぎふ 今年度のテーマ

- ①「サポート」各地域や若者等へ、広め、まじわる。またそのサポートを行う事業を実施する。
- ②「アクセシビリティ」アクセシビリティの視点をもった事業を展開する。

二村元子

今年度は、「いろんなみんなの展覧会」をはじめ、主に美術（展覧会、オープンアトリエ、サポーター企画等）に関する取組みを担当しました。今年度の重点目標であったアクセシビリティの視点については、「届けたい人は誰か？」ということ念頭に、“みんな”ではなく、一人の人をイメージしています。ただ、今後も終わることなく検討し続けていく必要があると思っています。

サポーター企画展では、テーマがファッションであったため、初めてファッションショーを開催しました。そこに関わってくださった専門学校生徒さんや音楽家、カメラマン、モデル、そしてサポーター。参加者はプロのモデルさんから初めての方まで。協力者、参加者の中には障がい当事者もいましたが、誰もが楽しんでいて、それを見ていた観客にも楽しさや嬉しさが伝わったように思います。自分の得意なことや好きなことで参加するという理想的なあり方だと思いました。

丹羽香津美

今年度一番深くかかわった事業は「森の夏祭り」コンサートです。このイベントでは、アクセシビリティに重きを置き、準備段階からどのような方法であれば相手に必要な情報を伝えることができるか、すべての人がその人らしく楽しめるかということ、出演者をはじめとし、舞台にかかわる様々な方と繰り返し相談しながら進めました。実際にお客様がどのように感じるのか分からず、どこまでのサポートが必要か手探りの状態でもありました。

本番当日、舞台袖から会場をのぞいた時に、障がいのある方だけでなく、子どもから大人までみんなが踊ったりマットでくつろいだりと思い思いに舞台を楽しむ姿があり、障がいの有無をこえたその光景に、「今日までの取り組みで目指してきたのは、これだったのか。」と胸が熱くなりました。

暗いホールの中になかなか入れない子もいたのですが、舞台鑑賞サポーターが寄り添って声を掛け、ホール側とも照明の調整をしながら最後には一緒に舞台を楽しんでくれたことなど、舞台にかかわる全員が一人一人のお客様に対して丁寧に接することができていたと思います。今回の事業を通して、これまで漠然と捉えていた本当の意味でのバリアフリー、すべての人が参加できる事の意味を感じました。

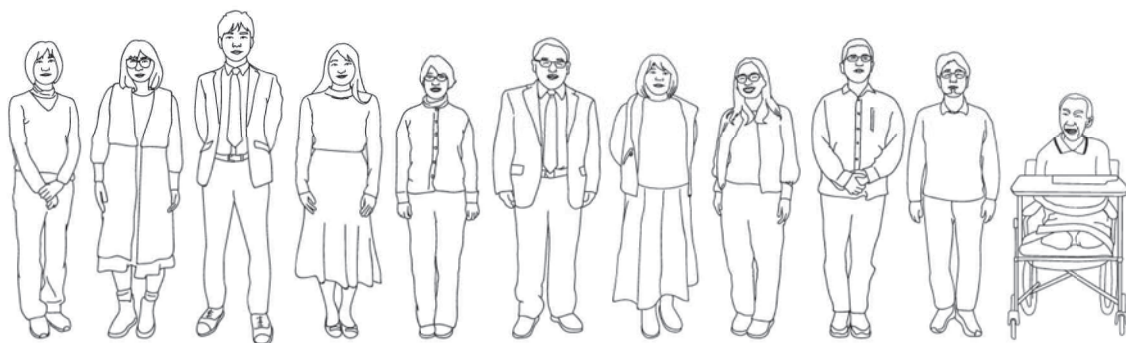
井川佐知子

アウトリーチとして、「TASC ぎふプレゼンツ展 みんなカモン！」「多様な有りよう展」「渾沌の中の調和Ⅲ」二次利用として「tomoni あたらしいものづくり [Make with 2023]」「tomoni つながるマーケット」を担当しました。

関市本町周辺の8店舗で開催した展覧会「渾沌の中の調和Ⅲ」では、お店の方や作家さんと、美濃加茂市でのアウトリーチでは、地域の方や作家さんと顔を合わせながら進めていくことが良い経験になっています。これまで私は、展示作業などに携わることはあっても、今回のように顔の見えるコミュニケーションをとる機会が少なかったのですが、直接会うことで、その人の喜びもすぐ見られるし、「ああ、本当にやってよかったな」というこちらの喜びにもなりました。作家さんも嬉しいし、ご家族も嬉しいし、自分自身もその場に遭遇できたので、すごく良かったです。

「tomoni あたらしいものづくり～」に関しても、販売までつながり、その先のお客さんの姿まで見えました。作家さんと作品と（同時に）対面することができたので、強く印象に残っています。「tomoni あたらしいものづくり～」では、報告も兼ねて、作家さんとともに知事を訪問しました。その訪問に合わせて前日にブラウスを買いに行った作家さんがみえて、それくらい嬉しいことだったのだと、改めて実感しました。「自分の作品がこのような（チョコレート）形になることが嬉しかった」ということを言われた方もみえて、作品を飾るだけではなく、カタチを変えた作品の見せ方でも「嬉しい」という気持ちが生まれることが分かりました。作品の二次利用に関する事業でも、やはり、顔を合わせることで、作り手の「笑顔」が見られる。そうした繋がりや場を企業の方の作品二次利用においても、作っていただけたらと思います。

TASC-CTIFU
REPORT



山田純平

今年度は、舞台に関する事業として「舞台手話通訳者養成講座 in ぎふ」「舞台鑑賞サポーター講座」「森の夏祭り」、そのほかに「清流ゆめ湊灯台の絵馬制作」「特別支援学校美術作品展」を担当しました。

アクセシビリティに関しては、公共交通機関等の環境的なハード面を含む部分と、舞台上での情報保障としてのアクセシビリティなど様々ありますが、今年度から TASC ぎふで働き始めて、初めてしっかりと意識するようになりました。誰もが舞台を楽しむために、字幕や手話通訳または舞台手話通訳などの情報保障に取り組みましたが、印象に残っていることは、手話を第一言語にしている方にとっては、役者と一緒に演技をする舞台手話通訳があることで、舞台の面白みが全然違うものになるということです。

舞台手話通訳が付いている舞台はとても面白く、役者さんの演技の感情をさらに増幅させるような、演出の一つとしての面白みがあると感じて観ていました。舞台手話通訳は、情報保障の一つですが演出に大きく関わる要素なので、舞台に取り入れるには演出家と表現の方向性の密な調整が必要です。今年度舞台作りに関わって、その過程を垣間見ました。しかし、手話や福祉を広めていくためにはとても良い手立てでもあります。舞台手話通訳付きの舞台を観た人が、それをきっかけに様々な福祉や芸術活動に関心をもってもらえると良いと思います。

平野千洋子

今年度は「オープンアトリエ」と「アートサポーター関係」、送付に関してや、「チャレンジ企画」、「出張オープンアトリエ研修」等を担当しました。

出張オープンアトリエ研修では、今年度はクリパラボさんと、いぶき福祉会さんを対象に、今後自主的にオープンアトリエを継続していただくための実践研修というかたちでサポートしました。講師とともに画材の並べ方や、どの順番で（画材を）出したら良いか、また、オープンアトリエの進め方などをお伝えしました。どちらの事業所も地域との交流をメインに考えて実施されていました。

ぎふ清流文化プラザで開いたオープンアトリエでは、何度も参加いただいている方も多いのですが、参加者同士の交流で作風が変化していくことも感じます。最近、印象に残ったこととして、ある時、参加者の描いている絵をじっと見ている子に対し、ご本人が「欲しいの?」と尋ねると、「欲しい〜!」と返すやりとりがあったことです。そこで交流が生まれ、それが描いている方の自信にもなり、絵をもらった子も嬉しい気持ちになれる、すごく幸せな時間でした。オープンアトリエは作品を作る場でもあり、交流の場でもあると感じます。

武藤弘明

私は、アウトリーチとして県内各地で展覧会やワークショップなどをその地域の方々と一緒に進める事業や、「清流の国ぎふ」文化祭2024を見据えた事業として「こたえのない学校」と題した交流事業を担当しました。

アウトリーチでは、まちなかの店舗などで作品を展示する企画もあり、アクセシビリティがハード（設備等）だけではなく、それぞれの人と人との関わりあいの中にも、必要性があることを実感しました。まちなかで、のんびりとコーヒー1杯飲むことを楽しむ。それだけのことと思う方もいれば、そこにハードルを感じる方もいる。そこに寄り添えるかどうか。そこに想像が及ぶかどうかでアクセシビリティが私たちのものになってしまう可能性もあるのだと感じます。

また「こたえのない学校」では、何か結果を求めたり、導き出したりするのではなく、ただ、そこで起こることを受け入れる。そんな、心地の良いような悪いような時間も過ごしました。それぞれに印象に残る瞬間がありましたが、太鼓部とクラウンとの交流企画では、心をグッと驚かすにされる太鼓部の演奏に驚かされるなか、クラウン KoTa さんが太鼓部の指揮者をするなかパフォーマンスを見せた時、一心に太鼓に向かっていた高校生たちが顔をあげ、KoTa さんを見て演奏を始めました。その瞬間、太鼓の音が開かれたような感じがしました。

「クラフトマンのワークショップ」では、講師をお願いしたいきさん。初めてお会いしてから5年くらいがたちますが、会うたびに変化を感じます。成長という感じとは違って、幅が広がっている感じがします。人の変化というのは、上に登っていくだけではなく、横に広がるような感じもあるのだと、ぼんやり考えさせられます。

中尾美優紀

今年度は、「私のいってん!」と「二次利用」「アーラとの連携事業」、展覧会諸々の準備などを担当しました。

「広める」という意味では、tomoni つながるマーケットの定期開催は意味があったと思います。参加いただいている福祉施設さんは、施設の中で完結してしまうことも多いですが、マーケットがあることによって外に出て、地域とつながることや、利用者さんが出店に参加されることで、自分たちが作っているものが、直接お客様に届けられるという喜びに変換できているんじゃないかなあという想いがあります。

この間、「次は、いつ出店があるの?」という利用者さんの声が多くあると出店していただいている施設さんから聞き、すごく嬉しく感じました。マーケットでの出店が、販売する商品を作る意欲につながったり、積極的な気持ちが出てきて施設の中でも笑顔が増えたりという声もあります。また、定期開催で、施設さん同士が定期的に顔を合わせる機会にもなり、横の繋がりができているようです。普段なかなか関われない施設さん同士ですが、その繋がりができると、互いに刺激をもらっていると感じます。

「私のいってん!」では、初めて作品を公に発表される方も多いですが、親御さんも気づいていない作品の魅力に気づいてもらえるという、見方が変わるきっかけになっているところもあって、すごく面白いです。



障がい者実演芸術アウトリーチコンサート
岐阜県立羽島特別支援学校
「ぼくらはみんないきている」

会期：2023年7月20日(木)
会場：羽島特別支援学校 体育館



障がい者実演芸術アウトリーチコンサート
岐阜県立大垣特別支援学校
「ぼくらはみんないきている」

会期：2023年9月6日(水)
会場：大垣特別支援学校 体育館



いろんなみんなのステージイベント
ゆめぼっけ&まみの夏祭り

会期：2023年8月18日(金)
会場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール



清流の国ぎふ総文 2024「特別支援学校部門」ブレ大会
音楽発表会

会期：2023年11月22日(水)
会場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール



YouTube
MOVIE



音楽座ぎふプレゼンツ
第8回 清流ふれ愛コンサート

会期：2023年12月3日(日)
会場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール



YouTube
MOVIE



第3回清流の国ぎふ障がい者舞台芸術フェスティバル
ぎふ★SHOW★フェスタ

会期：2024年1月21日(日)
会場：ぎふ清流文化プラザ 長良川ホール



YouTube
MOVIE

岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASC ぎふ〕 協力委員会・アドバイザー

岐阜県障がい者芸術文化支援センターの事業計画や進捗状況を確認して事業運営に必要な意見をいただくため、様々な分野において活躍する県内の有識者に、協力委員を務めていただいています。（敬称略）

〔協力委員〕

吉田健太郎 （一財）岐阜県身体障害者福祉協会 常務理事兼事務局長
浅井長可 （一社）岐阜県知的障害者支援協会 事務局長
中村剛 （特非）岐阜県精神保健福祉会連合会 顧問
長谷川典彦 （特非）岐阜県難病団体連絡協議会 理事長
松原勝己 岐阜県特別支援学校校長会 会長（岐阜県立大垣特別支援学校 校長）
日比野克彦 岐阜県美術館 館長
石崎泰之 岐阜県現代陶芸美術館 館長
中川正之 （一社）岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事
吉田和弘 国立大学法人東海国立大学機構 岐阜大学 学長
若井敦子 岐阜県議会議員

障がい者の芸術文化活動について支援を行う際に、必要に応じて美術や舞台等の専門家からアドバイザーとして助言をいただいています。

〔TASC ぎふアドバイザー〕

小島紀夫 舞台芸術アドバイザー
古田菜穂子 アート利活用アドバイザー
土屋明之 美術アドバイザー
曾我部弘樹 障がい者 tomoni トータルアドバイザー
松井義孝 リーガルアドバイザー



企画・編集・発行

（公財）岐阜県教育文化財団
岐阜県障がい者芸術文化支援センター〔TASC ぎふ〕
〒502-0841
岐阜県岐阜市学園町 3-42 ぎふ清流文化プラザ 1F
TEL 058-233-5377 FAX 058-233-5811
E-mail tasc-gifu@g-kyoubun.or.jp

発行責任者：田中誠司（岐阜県障がい者芸術文化支援センター長）
写真：伊藤健次郎、岐阜新聞社、スタジオベゴン、
TERAMAKI、株式会社フジナ、TASC ぎふ、松原一博
デザイン：boun
題字：大橋学（クリバラボ 所属）
表紙画：MAKOTO（第一陶技学園 所属）

フォローしてね

<https://www.tascgifu.com/>

TASC ぎふ

検索

WEB



Instagram



YouTube



